

# みんなで楽しくスポーツを

No.277 2018年2月



マイスポーツ発見プログラム(なぎなた)  
H29.12.2(丸亀市民体育館)



かがわドリームスポーツ教室(ソフトボール)  
H30.1.13(高松東高校)  
講師:ピックカメラ女子ソフトボール高崎所属  
上野由岐子(投手)・我妻悠香(捕手)

## 根付かせよう！スポーツ文化



第28回県民スポーツ・レクリエーション祭  
H29.11.12(サンポート高松)

- オリ・パラ特集  
イオンリテール株式会社 田淵 晋
- スポーツのすすめ  
NPO法人新町スポーツクラブ 理事長 小出 利一
- スポーツ指導者の声  
西原 浩、松下 隆
- わが町のスポーツ自慢  
坂出市、綾川町
- かがわのスポーツ・インフォメーション





## 「感謝」

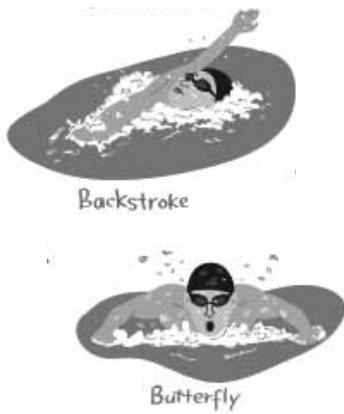
シドニーオリンピック・アテネオリンピック  
競泳 個人メドレー出場  
イオンリテール株式会社所属 田淵 晋

皆さま、こんにちは。田淵晋です。

香川県綾歌郡宇多津町で生まれ、高校3年まで香川県で、大学から現在まで東京で生活しております。

水泳は、3歳から始め、25歳の時に現役を引退、現在はイオンリテール株式会社スポーツ&レジャー事業本部でスポーツクラブの仕事をしております。

私は、2000年のシドニー五輪と2004年のアテネ五輪で、競泳200m個人メドレーと400m個人メドレーで、2大会連続出場することができました。改めて皆さま方



の多大なるご支援とご声援、ありがとうございました。

今回は夢のオリンピック出場までの道のりや、オリンピックの舞台で得た経験についてお話ししたいと思います。

私が水泳を始めたのは3歳、当時は身体が弱く、体力作りのために始めました。幼稚園までは、いつもプールに行くことと泣いていたことを記憶しています。それでも体力作りのために、半ば強制的に休まずプールに通っていました。そんな私が、水泳を好きになり魅力的に感じたのは、小学4年生の頃でした。その頃、県大会で決勝に残れるようになり、勝負というドキドキワクワク感を味わえたこと、試合に負けて「悔しい、勝ちたい」という心境の変化が大きかったと思います。また、小学校の朝礼では、水泳大会で好成績を

残し表彰してくれ、周りから注目されるようになったことも、更なるモチベーションアップにつながったように思います。そして、小学校を卒業した頃から、「オリンピックに出場したいな」という目標が出てきて、水泳に対して更に真剣に取り組みようになりました。当時を振り返った時、「出会い」や「感謝すべき人物」がたくさんいる中で、皆さまに知っておいてほしい3人を紹介したいと思います。この3人と出会わなければ、おそらくオリンピック出場はあり得ませんでした。

まず1人目。ジャパンスイミングスクール高田コーチの存在です。

普段の練習は、自主性に任せてくれていて、頑張っても頑張らなくても怒らないコーチでした。私も頑張れた日もあれば、頑張れなかった日もありましたが、そんな時も怒られ



ることや注意されることはありませんでした。

しかし唯一怒られたのが、1999年、香川で開催されたインターハイで、優勝できる種目であった400m個人メドレーでライバルに大差で負けた時でした。レース後、高田コーチと呼ばれて、コンコンと説教されました。何を言われたかほとんど記憶に残っていませんが（笑）今考えると、それだけ私に期待をしてくれていたのかなあ。高田コーチ自身が、「優勝させたい」「優勝できる」と思っていたからこそ、できなかった時の悔しさが、怒りに変わったのではないかと思います。その時、水泳は個人競技ですが、自分一人で戦っているのではないと感じた瞬間でした。その1か月後に行われた国体では、「勝つ」ことだけにこだわってレースに臨みました。自信にみなぎって、不安な気持ちは少しもありませんでした。結果、国体の400m個人メドレーで優勝することができ、香川インターハイのリベンジを果たすことができました。高田コーチもおそらく印象的なレースの1つとして挙げて頂けるのではないかと思います。このレース以降、私は急成長することができました。人

生のターニングポイントでした。高田コーチ、指導してくれてありがとうございました！

2人目。早稲田大学の故角間監督の存在です。

高校時代、地元インターハイ優勝、国体優勝と自分自身過去最高の成績を収める事ができ、高校3年生の秋、いろいろな大学から勧誘を頂きました。名だたる大学の中から私の心を大きく揺れ動かしたのは、「早稲田大学」でした。

わざわざ坂出高校まで来ていただき、熱心に大学練習の様子などを伝えてくれたのは、他大学も同じでしたが、角間監督から「君を必ずオリンピック選手にしてみせるからぜひ早稲田大学へ来てほしい」というお言葉を頂き、オリンピックに出場したいと本気で思えたことから「早稲田大学」に決めました。私が大学に入った時、角間監督は癌の治療のため、大学練習に来ることは難しい状況でしたが、体調がいいときは、練習に来られて「こうした方がいい」とか「この練習はしっかり意識してがんばりなさい」「お前は絶対オリンピックに行けるから、もっと頑張れ」と鼓舞して頂きました。しかし

私が大学1年の冬、癌には勝てずお亡くなりになりました。亡くなる前に手紙を頂きました。「オリンピック選考会でこのタイムを出せる」「シドニーオリンピックではこのタイムを出してメダルを獲る」といった内容

でした。2000年のシドニー五輪の代表選考会は、ジャージのポケットに角間監督から頂いた手紙(遺書)を持ってレースに臨みました。まさか日本新記録で優勝できるとは、自分自身も周りも思っていませんでした。角間監督の予言があたり、衝撃的なデビューを果たすことができました。改めて角間監督の言葉の重みを感じられ、早稲田大学に入ってよかった、信じてついていってよかった、と感謝の気持ちでいっぱいです。角間監督ありがとうございました！

3人目。両親の存在です。

高校までスイミングスクールへ妹も含めて4往復して、送り迎えしてくれしたこと、そして水泳を続けさせてくれたこと。裕福な家庭ではありませんでしたが、水泳用品、食事、合宿など最大限サポートしてくれたこと。

オリンピックで残念な結果で、メディアや友達から見捨てられ、すぐ

くつらい時期がありました。そんな中でも両親は、結果がどうであれ常に応援してくれていたこと、おそろく両親は私以上につらかったと思います。

自身の最終目標は「オリンピックでメダル獲得」でした。その目標は叶いませんでしたが、両親とともに勝ち取れた結果がオリンピック出場であったこと。改めて支えてくれてありがとうございました！

それ以外にも、ライバルや友達、



先生、学校関係者、水泳関係者など多くの方々のご尽力とご支援のおかげで2大会連続でのオリンピック出場ができました。今後、私の役割や使命は、香川県の子どもたちに、夢と希望を持ってスポーツや学問に取り組み前を向いて突き進んでもらうことです。2020年の東京五輪やそれ以降のオリンピック、パラリンピック、スポーツ大会で香川県の子どもたちに活躍して頂けることを期待しております。ありがとうございました！





## 「大切な幼児期から 児童期の外遊びと大人の役割とは」

NPO法人新町スポーツクラブ  
理事長 小出 利一

### 【幼少期から児童期の思い出】

今年60歳になる私達世代のスポーツとの出会いを改めて考えるとき、いつからなのか？

正直、明確にわかる人は何人いるのだろう？なぜならば、私たちの世代は、外遊びという意識があっても、それをスポーツとして意識してやっていたとは思っていないからです。

小学生の時にクラス対抗で野球やサッカーをみんなで楽しみました。バレーもバスケットもそうです。鬼ごっこも含めて、子どもたちでルールを学び合っていて、できる子どもできない子ども一緒に楽しい放課後遊びだったと思います。

自然環境の中でも川岸で石投げをして、水切りをして競っていました。その時の私たちは、誰か大人に指導を受けたことはなく、全身を使って、ともかく遊びだったことから辛い思い出は全くありません。私たちは、このようにして成長しました。そこで身に付けた様々な競技の動き、ルールは、大人になってからも忘れ

ないことから大人になってから体験した種目について、一通りできて、ルールも理解して楽しめています。

### 【現在の幼少期から児童期との比較】

現在は、全国どこでもほとんど、

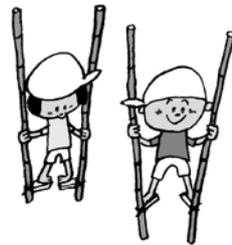
外で遊んでいません。安全に遊べる環境が少ないのか？遊びの大切さを忘れた大人が多くなり過ぎたのか？

そして、マスコミによる幼少期から一つのスポーツをすることがトッパースリートへの近道と誤解を招く報道も悪影響してか、幼児期から本格的にスポーツ教室へ入って活動している子どもも多くいます。

その結果、児童期になつてからスポーツ能力が伸び悩んでいる子が増加しています。

そして、現在の小学6年生は1985年（昭和60年）当時の年中の子どもと走力・投力が同じレベルにまで下がっているデータもあります。幼児期から単一種目体験のみの子は、種目の応用能力も劣り早期にス

ポーツ障害予備軍になります。つまり、大人が介入して指導している現代よりも、子どもたちだけで楽しみながら全身を使う遊びを真剣に体験した世代の基礎スポーツ能力は、はるかに高いといえます。



### 【大人の責任としてなにをするべきか？】

私は、大人が真剣に全力で遊ぶ姿を子どもたちに見せることが重要だと考えています。

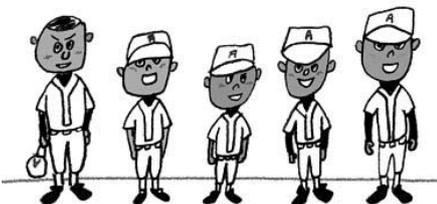
日本は、高校で運動部活動に入らない人から中年までの世代は、スポーツから遠ざかる世代です。本来ならば、最もスポーツをするべき高校生世代が運動部活動以外でスポーツができる環境も少ない日本。日本人の遊びという言葉の定義に「真剣」という文字が入っていません。しかし、本来、「スポーツは楽しい遊び」です。スポーツ先進国と言われるドイツでは、「スポーツは、真剣に遊んで人生を豊かにする国民が等しく行うこと」という定義になっています。

日本では、まだまだ全世代が楽しんでスポーツを行う文化が根付いていないとは思えません。子どものスポーツの世界に大人が過干渉（指導者・保護者含めて）になり、暴言暴力、いじめが未だに根絶できていない状況にあることが代表例です。

2年後に開催される東京オリンピックパラリンピック終了後、日本にスポーツ文化が根付くのか？これは、大人に課せられた宿題でもあり責任です。

1964年のオリンピックのレガシーは、日本スポーツ少年団です。次の世代に残すべきレガシーは、全世代で健常者も障害者も関係なくスポーツができる環境作りです。

私は「まぜこぜ社会IIインクルージョン」をスポーツ文化にすることを目指します。



# スポーツ指導者の声

合気道には他の武道やスポーツと違い、試合がありません。試合を通して勝敗を争ったり、優劣を競うという考えではなく、互いに切磋琢磨しながら日々の稽古を通して心身の鍛錬を図って行く武道です。

私は香川県立武道館(高松合気会)や香川大学で長年合気道の指導に携わってきました。稽古は通常二人一組でペアを作り、一方(受け)が攻撃し、他方(取り)がそれを制する形で行いますが、左右を行うと受け・取りが交代します。最初はゆっくりと動き、一通りの動きができるようになるのと力を強めたり、動きを速くしてレベルアップを図って行きます。また技毎に受け・取りの組合せを代え、いろいろな人と稽古をするようにします。力の強弱、身長の違い等により同じ技でも工夫しないとうまくできない場合もあります。初心者がかうまくできなければ、どのように動けばうまくなるか、きちんと導くことも上級者の重要な務めです。また馴れ合い稽古にならないよう常に戒めています。正しい技を行うに



香川県合気道連盟  
理事長  
西原 浩

「誰でも楽しくできる合気道  
—子供からお年寄りまで—」



は正しい動きと力の出し方が必要ですし、そのためには正しい姿勢が大切です。そしてその元には正しい心があるのはいくらでもありません。合気道で培ったことをいかに実生活で生かすかということも重要な課題です。合気道は、小学生からシニアまで幅広い層と一緒に稽古できますが、稽古を通して互いの思いやりや労りの気持ちが育まれます。数年前から県民スポーツ祭で合気道大会を開催し、初心者体験教室を実施しています。未経験者も参加して安全に稽古できるのも合気道の魅力の一つです。

平成24年から中学校で武道の必修化が始まりました。香川県でも中学校の授業で合気道が安全に実施できる武道として理解され、普及されるのを期待している所です。

小学生の頃から色々なスポーツをプレーし、高校卒業後に始めた硬式テニスでは数年後に香川県ランキング1位を数年間維持することもでき、全日本選手権や国体の四国ブロック大会へ県代表として出場しました。さらに、渡米し国外でのテニス大会にもチャレンジしました。

第55回富山国体では、香川県成年女子テニスチームの監督を任せられ指導者として経験も積ませていただきました。大会の出場を減らす頃に、プレイヤーだけではなく指導者としてスキルアップの必要を感じ、指導員資格やコーチ資格を取得し約26年間テニスコーチ業を続けております。

また、香川県テニス協会にてジュニア委員や普及指導委員を務め、3年前より香川テニストレーニングセンターのコーチも兼務し、協会内での役目を通じてテニスの「普及」や未来のプレイヤー「発掘」「育成」にも取り組んでおります。

長年テニスに携わる中で、充実したスポーツ活動を行うには、一つの競技団体だけでは無く、各種目競技



まちなかスポーツ紫雲  
理事長兼クラブマネージャー  
松下 隆

「スポーツを通じて  
これからも—」

団体や関係者、スポーツ関係以外のみなさまとの協力や連携が必要であると見え、スポーツに係わる「人」や「場所」「機会」作りなどを目的とする、まちなかスポーツ紫雲(総合型地域スポーツクラブ)を設立させていただきます。

今年3月には、理事長兼クラブマネージャーとして5年目の役目を終える予定です。今後、平成30年度中の法人化を計画しており法人化以降もクラブの目指す『新たな生涯スポーツ地域の実現』へ向け、クラブメンバーのみなさんと「する」「みる」「ささえる」スポーツに取り組み考えます。



## 坂出市

### ラジオ体操普及・健康増進事業

本市では、いつでも、どこでも、誰もが手軽にできるラジオ体操を通じて、市民の健康づくりや、地域間・世代間交流ができる拠点づくりを進めています。

平成24年7月1日に、市制施行70周年記念事業として「特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会」を開催し、この行事を、一過性のイベントとして終わらせるのではなく、翌年の平成25年度からは7月1日直近の日曜日を「坂出市ラジオ体操の日」に制定し、「ラジオ体操大会」および「ラジオ体操講習会」を毎年開催していきます。今年度は市制施行75周年記念事業として2回目となる「特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会」を、800人を超える参加者を得て盛大に開催することができました。

現在、市内4ヶ所に、NHKラジオ体操放送が毎朝自動で流れる、全国的にも珍しい「ラジオ体操広場」を開設しており、多いところでは100名以上の方が、毎朝元気よくラ

ジオ体操をしています。

また、本市のスポーツ推進委員から一昨年には1級ラジオ体操指導士が1名、昨年は2級ラジオ体操指導士が2名誕生するなどラジオ体操の普及にむけた動きも活発化しており、今後もスポーツを通じた健康づくりを進め、本市が取り組む、誰もが「健やかに」「幸せに」暮らせる「健幸のまちづくり」に繋げて行きたいと思えます。



連絡先 坂出市教育委員会生涯学習課  
電話 0877-44-5025  
FAX 0877-46-7140

## 綾川町

### 『アジャタを生涯スポーツに!』

綾川町スポーツ推進委員会では、町民一人ひとりが年齢に関係なく、スポーツを楽しむ機会が持てるように、新しい生涯スポーツとして、「アジャタ」の普及に取り組んでいます。「アジャタ」とは、運動会では定番となっている「玉入れ」を、スピード感あふれる競技スポーツに進化させたニュースポーツです。

スポーツ推進委員会では、平成25年度から県外の大会に参加するなどして、技術の習得と大会運営のノウハウについて研修してきました。また昨年度からは、綾川町スポーツ少年団交流会のレクリエーション種目に採用し、児童への普及を図っています。また、隔週の土曜日には誰でも参加できる体験講習会を行い、普及・指導に努めてきました。今年の6月に「第一回梅の里あやがわアジャタ大会」を、一般、レディース、ジュニアの各部門別に、7歳から85歳までという幅広い年齢層で構成された24チーム131名の方々に参加して



連絡先 綾川町教育委員会生涯学習課  
電話 087-876-1180  
FAX 087-876-3701

いただき開催しました。玉入れといっても、相当な運動量があり、皆さん心地良い汗を流しながら楽しんでいました。体験会として行った事前の講習会の成果もあり、はじめての大会としては予想外の良いタイムを出すチームもありました。今後は参加しやすい部門や内容を工夫して、気軽に参加いただける、広く皆さんに楽しんでいただける大会を目指して実施していきたいと思っています。

誰もが世界一になれるわけでもない  
誰もが日本代表になれるわけでもない  
それでも人はスポーツをする  
昨日の自分に追い越されないために  
明日の自分を追い越すために  
スポーツに鍛えられた人生は  
勝っても負けても きっと負けない

スポーツは、自分を超越するためにある。

# スポーツくじ



スポーツくじ (toto・BIG) の収益は、日本のスポーツを  
育てるために使われています。

# かがわのスポーツ・インフォメーション

## 総合型地域スポーツクラブ 「小豆島スポーツティーズ」

小豆島スポーツティーズは、2017年7月1日に香川県内28番目のクラブとして小豆島の土庄町に誕生した総合型地域スポーツクラブです。「夢のきっかけを作り続ける」をクラブミッションに掲げ、様々な世代、立場、経験を問わず多くの皆さんが、スポーツと様々な関わりを通して夢中になれるものを見つける場所に育て続けることを全ての軸として活動しております。

土庄町では、スポーツ少年団や一般世代のスポーツサークル活動、町行政が実施するスポーツイベントなど多くの取り組みが活発ですが競技を行う人と、スポーツに全く関わらない人の二極化が進んでいるという状況でした。スポーツをもっと身近に感じてもらう機会を作る必要性がありました。また、小豆島全体の問題として高齢化による人口減少問題により、様々な公共サービスや、今まで当たり前前だったことの維持が困難になる時代が身近に迫っているという側面も



面も

スポーツと関わる様々な選択肢をこの町に増やすこと。みんなで作り、みんなで育てるスポーツの力で町の魅力をより一層高め、人口問題解決の側面支援を行うこと。この二つの解決方法として総合型地域スポーツクラブという手法を取ることにしました。

プロバスケットボールチームの球団経営に長く携わったクラブマネージャーを中心に、現在は80名のクラブオーナーとともに「町の課題をスポーツティーズに解決」しながら、多くの皆様に「夢のきっかけを作り続ける」ことを目指し、次の活動をメーンに行なっております。

### ●プロキャンプ事業（ツーリズム）

プロバスケットボールチーム、熊本ヴォルターズ、香川ファイブアローズ、福島ファイヤーボンズの3チームを、小豆島をバスケットボールのキャンプ地として定着させるために実施しました。

また、各大学の競技チームのキャンプや、サイクルスポーツの合宿地としての調査活動等も行っております。

### ●島やけど世界レベル事業

島の皆さんに、トップレベルで活躍するアスリートや指導者との接点を作るために、プロ野球選手、プロ

バスケット選手、バスケット日本代表コーチ、錦織選手を育てた米国INGのコーチによるクリニックスや、オーストラリアで活躍する日本人選手によるサッカー指導など、様々なクリニックスイベントを実施しております。現在は、香川ファイブアローズや島外のサッカーコーチの協力を得て、毎週プロ選手から指導を受けられるアカデミーも実施しています。（バスケット、チア、フットボール）

### ●グラスルーツ事業

様々な世代の方がスポーツを楽しめるために、様々な競技やトレーニングを、8クラス開講しております。（健康体操やボルダリング、トランポリンなど）また、町や大学との協定事業として各地での健康増進活動、スポーツライフを送るためのきっかけづくりを行っております。



### ●夢のアリーナ事業

拠点となるフレトピアホールで、小豆島初となるプロバスケットボールの公式戦を誘致。満員御礼となり、多くの島民に楽しんでいただきました。

### ●今後の活動

私たちの夢は、この島からプロを目指せる育成型プロチームを作ることです。プロを目指す人が島に移住し、このチームから世界に巣立っていく、（小豆島に行ってプロになる）という仕組みを作り上げることです。3年以内創設を目的としております。



連絡先 小豆島スポーツティーズ  
電話 0879-62-7077  
メール info@Sportyz.jp

# かがわのスポーツ・インフォメーション

## 第28回県民スポーツ・レクリエーション祭 開催報告!

11月12日(日)サンポート高松において、第28回県民スポーツ・レクリエーション祭(ふれあいスポレク広場、レクリエーション大会)を開催しました。穏やかな気候の中、家族連れから高齢者までたくさんの皆様に参加してスポーツやレクリエーション活動に親しみ交流を深めました。

ウォーキングやサイクリングなどのレクリエーション大会や、キンポールスポーツ、3B体操、スポーツ吹矢、竹とんぼ教室、ニュースポーツ体験などのふれあいスポレク広場に約4千人が集まりました。さらに香川の4つのプロスポーツチームによるブースや「トランポリン体験会」も多くの人で賑わいました。

ステージイベントとして、ステップ21や



ボールルームダンス、武術太極拳など7団体が、ダンスや演技を発表しました。また、皆さんお楽しみみのスタンプラリー抽選会もあり、大いに盛り上がりました。

9月・10月を中心に、各週末に開催されたスポーツ大会には、グラウンド・ゴルフ、実年者バレーボール、キッズサッカーなど22種目の大会に4800名を超える参加者があり、和やかな雰囲気の中、さわやかな汗を流しました。

## 平成29年度青年大会報告

今年度も9月3日(日)に第66回香川県青年大会が香川県青年センターを中心それぞれの体育館等で行われました。

香川県青年大会は県下各地域で活動している青年が日頃の練習の成果を発表するとともに、参加者自身で創り上げ、また親睦、交流を深める大会です。さまざまな競技が開催されており、軟式野球、バレーボール、バドミントン、卓球、剣道、柔道、フットサルなど多岐にわたります。参加自体は1つの競技だけですが、様々なスポーツを一堂に開催する事で自分の競技だけでなく、スポーツに関わる多くの若者が相集えることも大きな魅力です。

また、香川県大会を経て、全国青年大会にも出場して頂いています。今年11月に東京にて行われており、今年度は、軟式野球、バドミントン、柔道、ボウリングの選手を派遣しました。

バドミントンやボウリングは準優勝、軟式野球もベスト



8と優秀な成績を収めています。大変歴史のある大会ですので、青年だけでなく、きつと懐かしいと思っ頂けるお父さんお母さん、おじいさんおばあさん世代もいるのではないのでしょうか?

時代の変化に伴い、競技の入れ替えや出場枠の緩和など行っており以前に比べても参加しやすくなっています。毎年9月に香川県青年大会、11月には全国青年大会が開催されます。ぜひ、参加してみませんか?お待ちしています。

活動内容はフェイスブックでもご覧いただけます。「香川県連合青年会」で検索してみてください。

連絡先 香川県連合青年会  
メール [seinenkagawa@yahoo.co.jp](mailto:seinenkagawa@yahoo.co.jp)



# かがわのスポーツ・インフォメーション

## 生涯スポーツ 指導者養成講座

生涯スポーツの積極的な推進や高度化・多様化するニーズに対応できる指導者の養成を目的に、6日間の講座を開催しました。スポーツに関する理論と実技についての研修を修

6	5	4	3	2	1
平成29年度内容	正しいテーピング法 松本接骨院 松本 和子 救急法 日赤香川県支部	トレーニング実技 香川トレーナー協会 阿部 純也 レクリエーション活動 県レクリエーション協会 小山 雅史 障害者スポーツ かがわりハビリテーションセンター 光吉 直哉 有酸素運動&レジスタンス運動 日本エアロビクス連盟 塩津 陽子 日本エアロビクス連盟 塩津 陽子	指導者の役割 香川大学 米村 耕平 文化としてのスポーツ 地域におけるスポーツ振興 神戸親和女子大学 田中 聡	トレーニング論 スポーツと栄養 四国学院大学 漆原 光徳 スポーツ指導者に必要な医学的知識 日本体育大学 成田 和穂	ジュニア期のスポーツ 指導計画と安全管理 高松大学 田中 美季 スポーツの安全と保障 スポーツ安全協会 植松 芳美

## 修了おめでとうございます



了した14名の方々に県教育委員会から修了証が授与されました。また、公益財団法人 日本体育協会のスポーツ指導者資格である、「スपोर्टリーダー」に16名の方が認定されました。

## 総合型 地域スポーツクラブ マネジャー養成講習会

今年度の総合型地域スポーツクラブマネジャー養成講習会を、12月2・3日に開催しました。

この講習会は、総合型地域スポーツクラブの創設や運営において中心的役割を果たすクラブマネジャーと、それを補佐するアシスタントマネジャーの育成を目的とし、8名が参加し7名が修了されました。

既存のクラブに所属されている方に多く参加していただきました。修了された皆様、おめでとうございます。それぞれの地域やクラブにおいて活躍されることを期待しております。



## 今年度修了された皆様

高松市	高松市	高松市	高松市	高松市	高松市
丸亀市	丸亀市	丸亀市	丸亀市	丸亀市	丸亀市
土庄町	土庄町	土庄町	土庄町	土庄町	土庄町
徳島市	徳島市	徳島市	徳島市	徳島市	徳島市
高知市	高知市	高知市	高知市	高知市	高知市

12/3	12/2	平成29年度講義内容
実践事例 特定非営利活動法人なかよしクラブみずほ クラブマネジャー クラブのつくり方 特定非営利活動法人 しまもとバンブークラブ 理事 松田 雅彦	香川県体育協会 クラブアドバイザー 山家 春香 実践事例 龍谷大学経営学部 教授 松永 敬子	地域スポーツクラブとは 地域スポーツクラブの現状 立命館大学スポーツ健康科学部 教授 長積 仁

# かがわのスポーツ・インフォメーション

## 新香川県立体育館の整備について

香川県教育委員会では、昨年12月に「新香川県立体育館整備基本計画」を策定しました。今後、施設の設計に着手し、完成は平成35年度を予定しています。

新県立体育館では、競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設、交流推進施設としての機能を備え、日常的なスポーツ・レクリエーション活動での利用に加え、これまで旧県立体育館で開催できなかった全国大会や国際大会など大規模なスポーツ競技大会やコンサート等の開催も想定しています。

基本計画では、メインアリーナ、サブアリーナ、武道施設兼多目的ルームなどの整備を計画しています。

### メインアリーナ

全国大会や国際大会など大規模なスポーツ競技大会の開催や、コンサートやコンベンションに利用することを想定し、バレーボール4面、バスケットボール3面、ハンドボール2面を確保するとともに、観客席については、固定席を5,000席から6,000席程度整備し、アリーナ面への仮設イスの設置等により、最大収容人数は10,000人以上とします。

### サブアリーナ

県大会など中規模なスポーツ競技大会の開催や日常のスポーツ活動の場などとしての利用を想定し、バレーボール2面、バスケットボール2面、ハンドボール1面を確保します。観客席は固定席を1,000席程度とします。

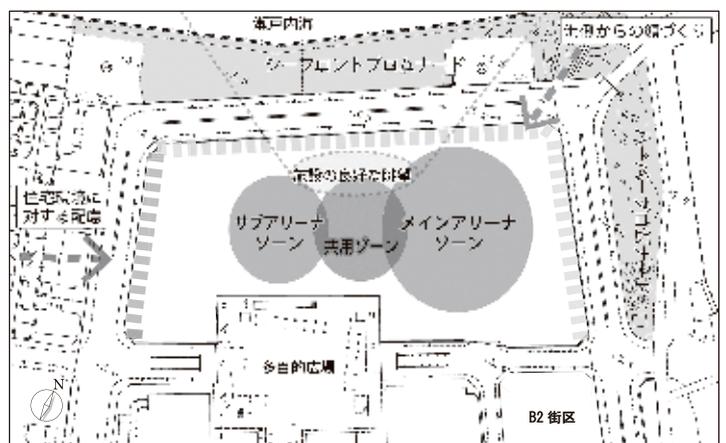
### 武道施設兼多目的ルーム

柔道、剣道等の大会の開催に利用するもので、エアロビクスやダンスなどの少人数でのスポーツ活動や文化活動に利用する多目的ルームを兼用します。柔道場または剣道場で3面確保し、観客席は固定席を300席程度とします。

### その他

器具庫や選手控室・更衣室、VIPルームなど必要な諸室を整備するほか、サービス施設として、瀬戸内海を眺望できる景観が優れた位置にカフェ又はレストランを整備し、新県立体育館の利用者だけでなく、県民の交流・憩いの場として計画しています。

駐車場については、日常利用やイベント主催者用として敷地内に100台程度を整備します。



詳細は香川県教育委員会保健体育課のホームページ  
(<http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/hotai/index.html>)に掲載しております

# かがわのスポーツ・インフォメーション

## 2017「愛顔つなぐえひめ国体」 香川県選手団の団体成績

### 2017愛顔つなぐえひめ国体 入賞者一覧(3位以上)

順位	競技名	種別	種目	氏名	所属名
優勝	陸上競技	少年男子A	棒高跳	石川 祐介	観音寺第一高等学校
	陸上競技	少年女子共通	棒高跳	山地 里奈	観音寺第一高等学校
	陸上競技	少年男子共通	走高跳	板東 琉太	高松工芸高等学校
	ウエイトリフティング	成年男子	56kg級 クリーン & ジャーク	妹尾 侑哉	東京国際大学
	馬術	成年男子	六段障害飛越	安田 一彦	スタリオンST
2位	カヌー	少年男子	スプリント カヤック シングル(500m)	安藤 久騎	坂出高等学校
	レスリング	少年男子	フリースタイル 50kg級	山根 典哲	多度津高等学校
	レスリング	少年男子	グレコローマン スタイル 60kg級	竹下 航生	高松北高等学校
	セーリング	少年女子	420級	長岡 叶子 森 七海	高松商業高等学校
	弓道	少年男子	遠的	横井 葵 本条 和 溝淵 拓巳	坂出高等学校
	カヌー	少年女子	スプリント カヤック シングル(500m)	平尾 和奏	坂出高等学校
	カヌー	少年男子	スプリント カヤック ペア(500m)	白川 翔大 田部 元基	高瀬高等学校
	カヌー	少年男子	スプリント カヤック シングル(200m)	安藤 久騎	坂出高等学校
	ウエイトリフティング	成年男子	56kg級トータル	妹尾 侑哉	東京国際大学
	3位	陸上競技	成年男子	400m	木村 和史
水泳		少年男子A	200m平泳ぎ	花車 優	丸亀高等学校
ボクシング		少年男子	ライトフライ級	桑内 翔樹	鹿島朝日高等学校
バスケットボール		成年男子	—	香川 誠治 他11名	四国電力(株) 他
レスリング		少年男子	フリースタイル 66kg級	西川 竣介	多度津高等学校
ウエイトリフティング		成年男子	56kg級スナッチ	妹尾 侑哉	東京国際大学
ウエイトリフティング		成年男子	105kg級 クリーン & ジャーク	多田 佳弘	多度津高等学校
ウエイトリフティング		少年男子	56kg級 クリーン & ジャーク	加藤 芳崇	香川中央高等学校
ウエイトリフティング		少年男子	94kg級スナッチ	太田 拓磨	香川中央高等学校
カヌー		少年男子	スプリント カナディアン ペア(500m)	阪口 雄基 渡辺 誉史希	坂出高等学校
空手道		成年男子	組手個人軽量級	梶村 侑哉	近畿大学工学部
空手道		—	組手団体	崎山 優成	高松中央高等学校
				模利 信乃	天理大学
				松下 真子	高松中央高等学校
				梶村 侑哉	近畿大学工学部
鎌田 瑛伍	近畿大学工学部				
小野 楓	中京学院大学				
ウエイトリフティング	成年男子	105kg級トータル	多田 佳弘	多度津高等学校	
ウエイトリフティング	少年男子	56kg級トータル	加藤 芳崇	香川中央高等学校	



第72回国民体育大会「2017愛顔つなぐえひめ国体」が9月30日(土)から10月10日(火)まで(一部競技を除く)、愛媛県で開催されました。

本県からは会期前競技を含め、36競技に669名の選手団が参加し、18競技70種目で入賞を果たしました。その結果、冬季大会・本大会を通して、天皇杯得点888.0点、皇后杯得点464.5点を獲得し、天皇杯順位30位、皇后杯順位36位となりました。

次回の国体は福井県で開催されますので、皆さん、香川県選手の応援よろしくをお願いします!



安藤 久騎(坂出高校)  
写真 四国新聞2017年10月3日付



安田 一彦(スタリオンST)  
写真 徳島新聞社 提供



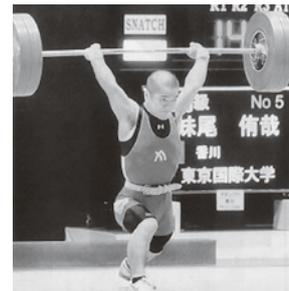
石川 祐介(観音寺第一高校)  
写真 四国新聞2017年10月7日付



山地 里奈(観音寺第一高校)  
写真 四国新聞2017年10月8日付



板東 琉太(高松工芸高校)  
写真 四国新聞2017年10月9日付



瀬尾 侑哉(東京国際大学)  
写真 四国新聞2017年10月6日付